

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	リズムJOY				公表日	2026 年 2 月 26 日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8		基準の2倍程度の広いスペースを確保している。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8		基準以上の職員を配置している。保育士、児童指導員、社会福祉士、精神保健福祉士、作業療法士など専門性のある職員が在籍している。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8		絵や図などの視覚的情報を用いたり、空間を構造化することでわかりやすい工夫をしている。段差のない、バリアフリー設計である。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8		毎日の清掃、除菌の実施、および空気清浄機、加湿器、オゾン発生器により、快適な環境作りをしている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8		訓練室以外にも、用途によって使用できる部屋があり必要によって落ち着いて過ごせる環境になっている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	8		日々の終礼、月1回のケース会議、勉強会などで適切な支援方法の検討や情報交換、共有し業務改善に取り組んでいる。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		この自己評価および利用者満足度調査において、評価、意向を把握し、業務改善に努めている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		終礼やケース会議等で意見を出し合い、話し合う場を設けている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		8		実施していない。今後検討していく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8		外部研修に多く参加している。法人内部での研修も実施している。事業所内でも勉強会、事例検討会を実施している。	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8		5領域に対する支援プログラムを作成し、ホームページで公表している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8		利用開始時、その後は6か月に1回以上（定期は9月と3月）保護者と面談し、アセスメント及び状況把握や課題分析を行い計画を作成している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8		モニタリング後、内容を職員間で共有し、次の目標や支援方法を共有し各々にあった支援を検討している。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8		支援計画書の内容は書面・口頭で共有し、全職員が把握した上で支援に当たっている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8		5領域にあわせた事業所独自のアセスメントシート・評価表を使用し日々の成長や変化を確認している。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8		日々の活動状況から見てくる課題の分析及び児童と保護者の意向や希望を聞き取り、総合的な援助方針を策定し、その上で具体的な支援の内容を示している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8		それぞれ職員が分担し、専門的な知識を持った職員の意見も聞きながら作成している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8		ルーティン化するためプログラムの流れは固定しているが、プログラムの内容は毎月変え、工夫している。1か月の中でもスモールステップで取り組めるような内容に工夫している。	

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8		基本は集団療育だが、個々の状況に応じ、プログラム内容によって個別に対応している。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7	1	その日ごとの分担当表を作成し、その都度確認し支援を行っている。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8		毎日終礼を実施し、その日の振り返り、特記事項等情報交換・共有をしている。業務日誌を作成し、全職員に回覧している。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8		日々の活動状況は連絡帳アプリ、業務日誌、特記の場合は成長シートに記録し、支援の検証・改善につなげている。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8		6か月に1回以上（定期は9月と3月）モニタリングを実施し、状況把握や課題分析を行い、計画の見直しを行っている。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	8		プログラムの中にも複数組み合わせ合わせた内容を取り入れている。長期休暇や休日通所では、プログラムだけではない体験が出来るよう支援している。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	8		選択肢を与え、自分で考え、決定できる力をつけていける様支援を行っている。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8		相談支援事業所の相談支援専門員との情報交換及びモニタリングは、電話での情報交換がほとんどであるが会議出席の要請があれば出席する。児童発達支援管理責任者が対応している。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8		児童の通う学校、その他関係機関と連携を行い支援を行っている。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8		行事予定、下校時間等は保護者から情報を得ている。送迎時間の変更やトラブル等、随時学校と連携を取っている。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	8		保護者からの聞き取りが主であるが、卒園と同時に当該デイを利用する場合は、園等と情報共有する場合がある。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	8		移行する障害福祉サービス事業所から求められた場合、情報を提供している。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	8		研修会に参加している。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	5	3	プログラムと一緒にすることはないが、夏祭り等のイベントで地域のこどもの交流場を設けた。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	8		福山地区放課後等デイサービス連絡協議会に加入し、定例会や研修会に参加している。また、自治体等主催の研修会・講演会に積極的に参加している。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8		連絡帳アプリや送迎時、モニタリング時の面談等で情報提供、情報交換し共有している。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7	1	送迎時、モニタリング時の面談等で情報提供、情報共有し、必要に応じて助言を行っている。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8		契約時に、契約書、重要事項説明書を示し、サービス内容、利用者負担等の説明をしている。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8		日々の活動の中やモニタリングの際、こどもや保護者の意向を確認する場を設けている。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	8		日々の活動状況から見えてくる課題の分析及び児童と保護者の意向や希望を聞き取り、計画を作成し、具体的な支援内容を説明の上、同意を得ている。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8		連絡帳のやりとりや送迎時、モニタリング時の面談等で情報提供、情報交換し共有し、必要に応じて助言と支援を行っている。

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	8		今年度は、夏祭り・参観日・保護者交流会という形で実施し、保護者やきょうだい同士で交流する機会を設けた。	その他にも交流する場を設けたいと考えている。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8		苦情はなかったが、迅速に誠意を持って対応する体制を整備している。対応体制については契約時の説明及び事業所内にマニュアルを備えており、いつでも閲覧できるようにしている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	8		毎月のお便り（リズジョイ通信）、HP、SNSにおいて活動状況、概要等をお知らせしている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8		個人情報の取り扱いについて、契約時に説明し同意を得ている。 SNS等に使用する場合は、個人が特定できないようチェックをしている。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8		児童に対しては、視覚的情報を用いるなど工夫している。保護者に対しては、連絡帳や送迎時、電話、メール、ラインで連絡ができるようにしている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	7	1	見学は随時受け入れている。法人の行事に招待している。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8		各マニュアルを策定しており、事務所内に整備している。職員は訓練も・研修を実施している。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8		年に2回防災訓練を行っている。 BCP（事業継続計画）を策定し、訓練も行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	8		契約時に確認している。てんかん発作に関しては、発作時の対応マニュアルを作成し職員間で対応方法を共有している。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8		契約時にアレルギーの有無を確認している。 現在対応児童はいない。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8		安全計画を策定し、計画に沿って訓練を行い、必要に応じて改善している。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8		取り組みについて、通信やSNSにて知らせている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8		ヒヤリハット報告書を作成、情報共有し、検討事例については随時会議を行い、再発防止に努めている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8		新人研修、定期研修にて実施。 外部研修にも参加している。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	8		やむを得ない場合を除き、身体拘束については禁止することを契約書に記載している。 現在そのような事例はない。		